

2021(令和三)年度 学校経営計画

1 めざす学校像

全校一致のもと、誠実でやさしさと活力あふれる人間を形成する。

- 1 一人ひとりの個性・才能を生かし、知力・体力を育成する。
- 2 自ら考え、責任ある行動がとれる人間を育成する。
- 3 誠実で品性の高い教養のある人間を育成する。
- 4 男女・民族・ことばの違いを越え、互いの人権を尊重し、平和を願う人間を育成する。
- 5 自然に親しみ、自然とともに生きることが大切だと思える心を育成する。

ヒト・モノ・カネが自由に国境を越えて行き来するグローバルな波は、急速に進展し、社会も急激に変化してきている。その変化に対応する力は、学校生活から培われるもので、中でもコミュニケーション能力や協調性は、家庭だけにとどまらず、学校生活におけるクラスやクラブ活動の中で養われていくものである。単に、グローバル化に対応するだけではなく、グローバル(地域・社会への貢献、人との結びつき、人と人との信頼関係)をも重視する必要がある。グローバルな人材とは、所謂、海外との橋渡し役や地域企業の海外進出を担い、世界に通用する能力をもった人材をさし、中等教育はそれらの力を養う上で、非常に重要な機関であり期間である。よってこれらに対応できるカリキュラムやプログラムを設定していかなければならない。その上で、急激な社会の変化に対応する力を身につけ、自分の進路を自分の力で開き、生徒自身が自己を律し、自立できる力をつけることを目標とする。

また、2015年9月国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2030年までの国際目標“SDGs”に賛同し、教育目標としたい。

ICT教育、グローバル化に対応し、生徒一人ひとりの自主性を尊重し、生徒の可能性と個性を伸ばす教育を実践するため、タブレットを活用し、教育の拡充を行う。

「徳育」を教育の中核に据え、知・徳・体のバランスある人格を備えた、自律、自立できる人間力豊かな生徒を育成する。



2 中期的目標

1 疑問(なぜ)から納得(なるほど)へと学びの質の変化に対応した学力の育成を図る。

本校の生徒実態を踏まえた授業改善に組織的・計画的に取り組む。

- ア 生徒のレディネスに応じた教育内容を踏まえ、「わかる授業、充実した授業および創造性を育成する授業」をめざす。
- イ ICTを活用する教員の割合をさらに増やし、授業時にタブレットを導入し、授業水準の高度化を行う。
- ウ 探究学習として、学習に興味を持たせるため、自分が興味あることを調べ、発表させることでプレゼンテーション能力を高める取組みを行う。

2 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立を図る。

- ア 学年・進路指導部が軸となり、総合の時間の担当者とも連携し、3年間、または6年間を見通したキャリア教育を行う。
- イ 進路指導部主導の学問体感並びに外部講師を積極的に招くとともに、生徒による振り返り・発表の機会を増やす。
- ウ 大学訪問を通して、生徒の進路への意識付けを行う。
- エ 学業と共に、行事や部活動を通して、自身の興味や関心を寄せるスポーツや学問、文化などに親しみ成長の糧とする。

3. 学校全体としてグローバル人材に必要とされる英語運用能力(リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの4技能)の育成に取り組み、グローバル社会に貢献できる人材を育成する。

- ア 英語運用能力育成の為、資格習得の学習を促進する。
- イ 他者共感能力・異文化理解能力・批判思考力・論理思考力などの力を育成する。
- ウ グローバル人材を育成する海外研修プログラムを実施する。

4 安全・安心で魅力のある学校づくりのための組織の確立

- ア 保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の教育相談体制を充実させる
- イ 保護者に対して積極的かつ効果的な広報活動を行う。
- ウ 生徒理解の促進と、安心・安全な学校づくりのための体制の確立をめざす。
- エ 保護者、地域関係者に対する生徒による校内発表の場への参加呼びかけを拡大するなど地域との交流を図る。

5 教員の授業力の資質向上に向けた取組み

- ア 各教科で研究授業・研究協議を実施する。生徒による授業アンケートを行い、分析し、改善策を検討する。
- イ 教員研修として複数回、人権研修・危機管理研修・教育相談研修などを行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校関係者からの評価】

学校評価アンケートの結果と分析 [令和3年12月]	学校関係者評価
<p>教職員、保護者、生徒を対象。前年度までのマークシート方式からWeb上での回答に変更。保護者の方の回答率は比較的良いが、生徒の回答率がメール送信の問題から低くなった。次年度改善したい。授業に関しては教育熱心であるが、もう少し高いレベルでやってほしいといった意見や教員によって差があるのではないかと意見があった。あとはコロナについて学校の対応と、もう少し対策への強化をしてほしいとの意見が多かった。バスについては日曜日には出せない旨をアンケート前に事前に連絡していたが、出してほしいとの意見や、コロナ対策について、また本数や運行上への意見があった。クラブ関係については、勉強との両立について、活動が活発過ぎないかとの意見が多かった。生徒からは校則という言葉が多く出てきた。校則が古い、時代遅れだといった意見や、生活の中での意見が中心だった。メールについての扱いは、肯定的な意見が多かった。その他の項目も概ね8割程度の肯定意見が多かったが、6割を切っている項目として、学業とクラブの両立が整っている点で差があった。保護者の悩みに関して分からないという意見が多かったのは学校に来られる機会が少なかった事も原因かとは思わないかと思う。特色、グローバル関係もコロナ禍の中評価が難しいところとなっている。中高一貫についての評価は肯定評価が50%程度で、分からないという評価も多かった。ICT化については、教職員についてはタブレットを活用するようになったこともあり、意識も高くなってきて年々スキルは向上している。部活動の両立ができ散らかどうかは60%の肯定評価となっていて、もう一歩頑張らないかという意識があるように思う。中高一貫の評価は生徒についての評価で70%となっているが教職員が中高一貫教育について評価が低く、うまくいっていない意識がある。、教員、保護者の評価が厳しい中、どこまで何を評価するのかを考えないといけない。</p>	<p>第1回(令和3年7月10日(土)) 第2回(令和4年4月16日(土))</p> <p>中高一貫の評価について教職員の評価が低いのが目立ってしまうことについて、効果的になっているのか、どこを目指していくのか具体的にしていければよいのではないかと。先生方が満足すると止まってしまうので、評価は難しいが、もっと明確な評価基準はいるのではないかと。</p> <p>六年間過ごした時の教職員と保護者の評価はリンクしており生徒の評価と少し異なっていると思う。勉強する環境はあったのかもしれませんが、クラスによって差があり、勉強の意識が低い生徒へのフォローが足りないのではないかと。コロナがあったので集まる機会が少なく親と一緒にやろうという感じももてなかったのではないかと。六貫メリットは早めに勉強できることと受験がないことで、その空いた時間で早めに勉強していくのは分かるが六貫だから何かできる、人間の幅を広げるような取り組みがもっとできないか、受験も推薦が増えている中で、学力+アルファで関西大倉はそのような学校ですと評価が得られるのではないかと。メリットとして先生が変わらない、友達がずっと同じ、自分のことをよくわかってもらっているという居心地が良いというのがあるが、それ以外に何かあることが魅力があがることにつながるのではないかと。外部との相乗効果でお互いが伸びてくるのではないかと。高1の企業探求でプレゼンを行った時に、その時のメンバーと意気投合して、観光地のプレゼンを行ったことが子供にとって違う面が見れたので良かったと思う。色んな機会を作ってもらえることがありがたいと思った。</p> <p>保健委員会でも取り上げられていた生徒の心の問題が、コロナ禍からなのか、過呼吸などに表れ、原因は家庭の問題や人間関係なのか、家庭の問題で影響が出てくることはあると思うが、発見しやすいのは学校で人間関係から出てきたり、本質的に持っているものがあつたり、見えない問題で、コミュニケーションがとりにくいこともあり、親が子供に気付けていなかったり、少し扱いにくいなといった程度であったりした場合、難しい判断になると思い、先生に相談しにくいものが児童相談所に連絡がいくケースがある。家庭の問題なので、先生が解決できない場合があるけれども先生がケアできることがあると思う。学校の立ち位置としては、ここが安全な場所であることが必要ではないか。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

1 疑問(なぜ)から納得(なるほど)へと学びの質の変化に対応した学力の育成を図る。

本校の生徒実態を踏まえた授業改善に組織的・計画的に取り組む。

中期計画	重点目標・取り組み内容	評価指数・自己評価
ア わかる授業、充実した授業及び創造性を育成する授業の推進	本校の生徒実態を踏まえ、学習到達目標の点検を行う。各教科センター共通テストレベルは確実にこなせるようにする。	生徒からの授業内容の信頼についての肯定評価が80%を上回っているがより高める必要がある。共通テストは本試験平均と比べて本校平均が昨年比1～9ポイントとダウンした。テスト自体の難化の影響もあった。
イ ICTを活用する教員の割合を順次増やし、授業時にタブレットを導入し、授業水準の高度化を行う。	タブレットの活用例を共有し、教員間でのICT教育に関するコミュニケーションを高めていく	教職員、生徒ともアンケートから肯定評価が80%以上と高かった。さらに評価を高めていけるよう内容を充実させていきたい。
ウ 探究学習として、学習に興味を持たせるため、自分が興味あることを調べ、発表させることでプレゼンテーション能力を高める取組を行う。	企業探究などの充実、授業時等でも発表の場を設けてプレゼン力の向上を図る。	本年度は、自己でテーマを決め、それについて発表を行って行く取組を行った。

2 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立

中期計画	重点目標・取り組み内容	評価指数・自己評価
ア 学年・進路指導部が軸となり、総合の時間の担当者とも連携し、3年間、または6年間を見通したキャリア教育を行う。	経年の学習成績を一つにまとめ、進路ノートを活用し学習指導・進路指導に役立てる。	進路指導項目のアンケートは70%程度の肯定評価。一人一人の進路についてより丁寧な指導ができるよう心掛けていきたい
イ 進路指導部主導の学問体感並びに外部講師を積極的に招くとともに、生徒による振り返り・発表の機会を増やす。	学問体感(国公立大学教員による出前授業)や教育機関からの大学進学に向けての講演を行う	学問体感はコロナ禍の為中止。卒業生や外部機関からの講師を招いて、進路講演を行った。
ウ 大学訪問を通して、生徒の進路への意識付けを行う。	夏休みや冬休みの期間を利用して大学訪問を計画し、レポートの提出等を行う	本年度はコロナ禍の為中止
エ 学業と共に、行事や部活動を通して、自身の興味や関心を寄せるスポーツや学問、文化などに親しみ成長の糧とする。	学校行事の充実、学業と部活動の両立を行いやすい環境を整えていく。	学業と部活動の両立については生徒は80%に近い評価であるが、教職員では60%弱と低めの評価であった。更なる環境整備が必要である。

3 学校全体としてグローバル人材に必要とされる英語運用能力(リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの4技能)の育成に取り組み、グローバル社会に貢献できる人材を育成する。

中期計画	重点目標・取り組み内容	評価指数・自己評価
ア 英語運用能力育成の為、資格習得の学習を促進する。	英語検定の資格取得率の向上を目指す。	準2級が6割程度、2級が4割程度で準1級は若干名の取得となっている。
イ 他者共感能力・異文化理解能力・批判思考力・論理思考力などの力の育成する。	希望者を対象としてオンライン国際交流の導入、ディベート学習会を校内で実施する。	年間を通して、京都大学高大連携の野生動物初歩実習と、の8月にPBL国際交流と、12月に大阪大学留学生との交流をオンラインで実施した。
ウ グローバル人材を育成するプログラムを実施する。	本校との姉妹校である韓国善隣インターネット高校へのホームステイ希望者に対して、韓国語や英語及び韓国の文化を学ぶ事前学習として、立命館大学の韓国人留学生、大学院生とのディスカッションを行う。	本年度はコロナ禍の為中止
	六貫教育推進のなかで、ニュージーランド Upper Hutt College や Taita College において、生徒のみのテーマ学習と、ケーススタディとしてホームステイ先でのトラブル防止を主な目的として行い、探究を深める	本年度はコロナ禍の為中止
	イギリスの伝統的パブリックスクールである Harrow School への夏季語学留学を希望者対象に2週間実施し、同校出身のOxford大や Cambridge大学の学生と交流を行う。	本年度はコロナ禍の為中止

4 安全・安心で魅力のある学校づくりのための組織の確立		
中期計画	重点目標・取り組み内容	評価指数・自己評価
ア 保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の教育相談体制を充実させる	カウンセラー配置によって、教員間との連携ができ、迅速かつ適切な指導ができる体制を確立する。	保護者の悩みへの対応は肯定評価が 60%を切っているため、連携を深められるように改善を図る必要がある。
イ 保護者に対して積極的かつ効果的な広報活動を行う。	学校行事などをHPでも紹介し、学年だよりを充実させる。	保護者の HP への肯定評価は 80%以上となっている。ただ、学年だより等をもっと発行して欲しいとの声も複数あるので、精査して取り組んでいきたい。
ウ 生徒理解の促進と、安心・安全な学校づくりのための体制の確立をめざす。	学校保健委員会・安全衛生委員会を定期的に開催する。その中で産業医(学校医)との連携も強化する。いじめ対策委員会が中心となり、学校生活アンケート等をもとに生徒のケア体制を確立する。	学校生活アンケートは1学期、2学期にそれぞれ1度ずつ行い、教職員会議で分析し指導に活かしている。いじめの事象も対策委員会を即時開き解決に向けて方針を立てている。
エ 保護者、地域関係者に対する生徒による校内発表の場への参加呼びかけを拡大するなど地域との交流を図る。	警報等発令時に加え下校時刻の変更時の緊急メール配信(ミマモルメ)の迅速な配信をはかる。 より生徒の安全性を高めるため、救急救命講習会を2回実施する。	メール配信については頻繁に行っており、この項目のアンケートでもほぼ100%に近い肯定評価となっている。救急救命講習会や地域との交流についてはコロナ禍の為実施できなかった。

5 教員の授業力の資質向上に向けた取り組み		
中期計画	重点目標・取り組み内容	評価指数・自己評価
ア 各教科で研究授業・研究協議を実施する。生徒による授業アンケートを行い、分析し、改善策を検討する。	授業アンケートを7月と12月に実施予定。結果を分析し、改善策を検討する。教科ごとに授業見学、さらに教科を越えて教員相互授業見学と研究協議を行い、授業改善を図る。更に、全体研修会を行う。	アンケートは予定通り実施。結果の分析についてはこれからの課題である。授業見学週間を設定し、研鑽を積んだ。
イ 年度の必要性に応じて、教員研修を複数回、人権研修・危機管理研修・教育相談研修を行う。	教員研修として、人権研修・危機管理研修・教育相談研修等を行う。 授業アンケート結果による教員研修を実施する。	セクハラ・パワハラ、熱中症対策(コロナ禍の為ビデオ視聴)、評価についての講演を行った。授業アンケート結果は個別に配布し、振り返りの提出を行っている。